

第50回記念愛媛県特別活動夏季研究会

日時：平成30年8月6日(月)

場所：松前総合文化センター

「絆を深め、未来社会を切り拓く力を育む特別活動の創造」



第50回記念愛媛県特別活動夏季研究会に寄せて

愛媛県教育研究協議会特別活動委員会委員長
委員長 妻鳥昇司

享保の大飢饉の際、身を犠牲にして麦種を守った「義農作兵衛」の「義農精神」が生きている町、松前町において、特別活動に熱い「愛」をもって取り組まれています多くの先生方とともに、第50回記念愛媛県特別活動夏季研究会が開催できましたことに、心より感謝申し上げます。大会当日は、愛媛特活の足跡を示した年表、夏季研究会資料袋イラストの原画、開会式前の映像資料、スタッフ用記念ポロシャツ等にもチャレンジすることができました。

さて、「今こそ、特別活動の充実を！」と、「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」（教師向けリーフレット）が、7月、国立教育政策研究所教育課程研究センターから発表されました。そこには、特別活動がもたらすものとして、「学級活動に役立ちます」「学力向上につながります」「キャリア教育の要です」「生徒指導上の問題を未然防止します」「道徳的実践に結び付きます」の5項目が掲げられています。参加者の皆様の特別活動への熱い思いが、ここにも明確に記されています。本委員会メンバーが、このリーフレット編集に作成協力委員として参加できましたことは、誠に光栄であります。

今回、本会は、第50回記念を迎えました。特別活動を愛する先輩方のような熱い思いが、1967年の第1回大会、八幡浜大会開催に結びついたのででしょうか。本委員会発行の機関誌、当時の第1号には、このような記述があります。

「厳しくてたくましい自主性を強調する学級活動は、確かな学級づくりに始まり、確かな学級づくりに終わる。教師と生徒、生徒と生徒がお互いの信頼感に強く結ばれ、温かい人間関係が醸し出されている学級。生徒の一人一人が自分の学級を誇りに思い、所属感・連帯感に喜び満足しきっている学級。こんな学級から、生き生きとした学級活動の時間が展開され、知性と行動を貫く鋭い自主性が芽生えてくるように思えてならない。（中略）教師よ、人間の座に帰れ、そしてもう一度、子どもたちの誠実な瞳に学びながら、自分自身をつくりかえていけ。」

私たちは、当時の熱い思いを引継ぎ、次期学習指導要領、そして、今回発表された教師用リーフレット等を抛り所として、子どもたちの輝く愛顔のために、特別活動のさらなる発展に努めようではありませんか。

特別活動への熱い「愛」と意義を再確認する本大会ですが、今回も、文部科学省の安部恭子先生にご指導いただきましたこと、心より感謝申し上げます。また、各分科会では、愛媛大学から、白松先生、尾川先生、遠藤先生、そして本会OBの高橋先生のご助言をいただくことができ、ありがたく存じます。

最後になりますが、各分科会での発表・司会・記録の先生方、研究会の準備・運営に携わっていただいているすべての先生方に深く感謝申し上げます、挨拶といたします。

(小・中学校共通)

特 別 活 動

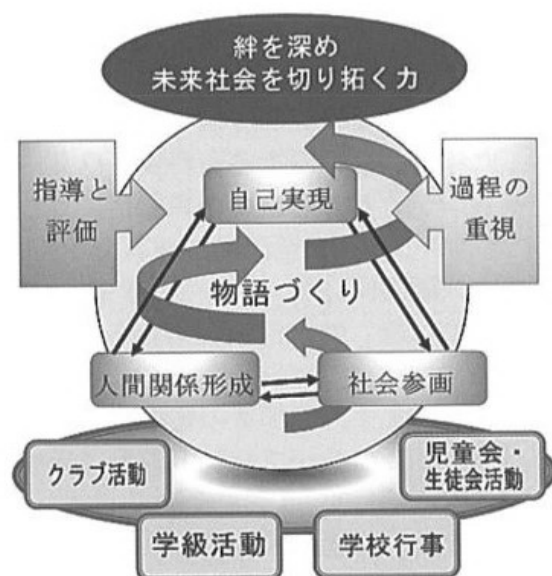
I 研究主題

絆を深め、未来社会を切り拓く力を育む特別活動の創造

—「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点を踏まえた『物語づくり』の実践を通して—

II 研究主題のとらえ方

現在、生産年齢人口の減少、グローバル化、技術革新や人工知能（AI）の進化など社会の急激な変化により、予測が困難な時代となっている。子どもたちを取り巻く現状も、「豊か」と言われる社会の中で、貧困問題を抱える子どもたちの存在や、通信機器の発達により、ネット依存症やコミュニケーション能力の低下など様々な問題を抱えている。特別活動は、学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事から構成され、様々な集団での活動を通して、児童生徒が、社会で生きる基盤となる力を育む活動として機能してきた。また、協働性や互いを認め合う土壌をつくり、生活集団、学習集団として機能するための基盤となってきた。「なすことによって学ぶ」その実践的な活動は、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化への醸造へとつながり、学校の特色ある教育活動の展開を可能としている。そこで、今後も「絆が深まる」というテーマで、人との関わりをより重視し、心の育ちに着目した内面的な結びつきを大切にしながら、よりよい人間関係を築くための研究を進める。「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえて、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、集団の中で個が成長し、その成長が結びつきながら集団の成長へとつながる。この成長過程こそが自分たちの物語である。特別活動における、この『物語づくり』の中で培う「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることが、未来社会を切り拓く力を育み、自分らしい生き方へとつながっていく。



III 研究のねらい

- 1 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点を踏まえて、児童生徒の絆が深まるような授業実践やその振り返り方法について実践的に研究する。
- 2 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、未来社会を切り拓く力を育む特別活動の在り方を、各教科や道徳科、総合的な学習の時間等との関連を図りながら研究し特色ある活動の創造に努める。

IV 研究の視点

1 よりよい人間関係を築く資質・能力の育成

～魅力ある学級の物語づくり～

一人一人が活かされる学級活動を展開し、それに伴い集団も成長する学級文化を育む。

- 温かい学級集団の中で、よりよい生活を築く実践のための話し合い活動の充実
- よりよい人間関係を形成し、自己の成長を目指す意思決定の在り方

2 よりよい学校生活・ボランティア活動などの社会参画する資質・能力の育成

～自発的・自治的な児童会・生徒会活動の物語づくり～

学級や学年を超えた児童生徒相互の連帯感を深める自発的、自治的な活動を効果的に展開する。

- 児童生徒が主体的に創りあげ、よさを認め合える異年齢集団活動の充実
- 児童生徒が主体的に組織づくりを行い、課題解決のために合意形成を目指す実践の在り方

3 よりよいつながりを楽しむ資質・能力の育成

～協働し、認め合うクラブ活動の物語づくり（小学校）～

異年齢集団での活動を通して個性の伸長を図り文化を実体験できる活動を工夫する。

- 地域の特色を生かし、地域の人や文化とつながるクラブ活動の設定
- 異年齢集団で共通の興味・関心をより深く追求するクラブ活動の指導と評価の工夫

4 よりよい校風を確立しようとする資質・能力の育成

～集団への所属感、連帯感を深める学校行事の物語づくり～

創造的でダイナミックな体験ができる場や時間を保障し、所属感や連帯感を培う。

- 児童生徒が積極的に参加し、特色ある学校づくりやよりよい校風づくりにつながる学校行事の工夫
- 多様な他者との交流や豊かな体験活動を通して感動を生み出す行事の工夫

V 評 価

- 1 特別活動の目標を分析し、育成しようとする資質や能力と評価の関係を明確にし、評価の観点を各学校において独自に設定し、指導と評価に生かす。 【評価の観点】
- 2 各内容の目標を踏まえ、学校の実態や発達の段階等に即して、評価規準を明確にし、児童生徒一人一人のよさや成長を加点評価する。その際、集団の質の高まりについても評価し、その後の活動に生かす。 【個と集団の評価】
- 3 活動の過程を重視し、自己評価、相互評価、教師の観察、児童生徒の記録等を活用し、継続的、多面的、総合的に評価することで、活動意欲につなげる。 【評価の方法】

VI 留意事項

- 全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かし、学級、学校づくりを念頭に置きながら、学校の実態や児童生徒の発達の段階等を考慮して自主的、実践的な活動が助長されるようにする。また、各教科等の特性を踏まえ、適切な関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携を工夫する。また、それらの計画は、必ず評価を伴うものとする。
- 特別活動と道徳は、子どもの心を育てる二つの大きな原動力であり、両者の関連づけを研究しながら、子どもの心の変容を評価につなげる。特別活動での望ましい集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的実践の場となる。特に、自己の生き方についての考えを深め、集団のために働く意欲や、規範意識等の社会参画の力を育てるためには、道徳の時間との関連が重要となり、特別活動と道徳の時間の特質を十分理解し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成へとつなげる。
- 児童生徒一人一人が社会的・職業的自立のために必要な能力を育成するため、総合的な学習の時間との関連を図り、自らの生き方を考えることができるよう、発達段階に応じ、小中連携を図った組織的・系統的なキャリア教育を推進する。そして、各学校が地域の文化や伝統、地域の人々や自然との触れ合い、勤労や奉仕の精神の涵養に関わる活動等の研究を進める。



特別講演

新学習指導要領における特別活動のあり方と実践

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

安 部 恭 子 先生

1 はじめに

リレハンメルオリンピックノルディック複合団体金メダリスト阿部雅司さんは、アルベールビルオリンピックにおいて、チームのキャプテンとして参加したにもかかわらず、試合の前日に大会に出られないことを監督から伝えられた。悔しい気持ちを乗り越え、キャプテンとしてチームのサポートをしようと決意した。出場した他の選手たちは金メダルをもらったが、自分は補欠だったのでもらえなかった。そのとき、引退も考えたそうだ。しかし、家族や仲間を支えられ、復活。応援してくれた人たちの笑顔のために頑張った結果、リレハンメルオリンピックでは、選手として試合に出場することができ、団体戦で金メダルを獲得することができた。「スキーで学んだ大切な事とは何か。」との質問に、「失敗を恐れずいろいろなことにチャレンジする。相手の立場になって物事を考える。目標や夢を口に出して言う。そして何より、全員でポジティブな発言をする。」と答えている。今でもこれらのことを大切に、たくさんその後継者を育てている。阿部さんの考えは、学校生活にも当てはまることである。

OECDの学習到達度調査は、義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを評価したものである。2015年調査においては、筆記型調査からコンピュータ使用型調査に移行している。この調査で、日本はシンガポールに次いで世界2位という結果だった。日本の生徒が高く評価されたポイントは、課題に対してチームでどのように取り組んだかという点である。日本の生徒は、課題を解決していく際、まず初めにどのようにして課題に取り組むか、戦略について話し合うことから始めた。このことは、チームとしてどう取り組むか見通しをもって行ってきた学校生活における特別活動での取組が功を奏したといえる。このような日本の特別活動の実践の中で育まれた「高い協同解決能力」、「協調性」、「意見調整力」等は、世界で通用する力、また、これからの社会を生きていく上で必要な力である。

2 新学習指導要領における育成すべき資質・能力について

これからの教育課程の理念〈社会に開かれた教育課程〉

今回の教育課程で一番大事なキーワードは、「社会に開かれた教育課程」である。「社会に開かれた教育課程」とはどういうことか。目の前の子どもたちにどのような資質・能力を育みたいかということ、教育課程の中で明確にし、それを地域社会と共有して子どもたちを共に育てていくことである。①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標をもち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指

すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

育成を目指す資質・能力の一つ目の柱の知識・技能（何を理解しているか、何ができるか）は、単なる知識・技能ではない。例えば、国語は国語、社会は社会ではなく、既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できるようにするなど、国語で学んだことを他教科での学習に生かし、総合的に活用するなど、生きて働く学びとなるようにする。二つ目の柱、思考力・判断力・表現力等（理解していること・できることをどう使うか）は、与えられた問いと答えではなく、未知のことにも対応できる思考力・判断力を身に付けなければならない。三つ目の柱、学びに向かう力・人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）では、自ら学び、学びを人生や社会に生かしていく。自分たちの人生を自らよりよくしていく、そういう子どもたちを育てていく必要がある。

3 新学習指導要領告示 平成 29 年 3 月 31 日 先行実施（小中学校）平成 30 年 4 月から

学習指導要領 前文（抜粋）

（前略）これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。（後略）

これらのことが明記された理由は次の通りである。これからは AI がますます発達し、少子高齢化が進み、50 年後には生産年齢人口が今の半分になる。そうすると、求められる働き手が変わってくる。職業についても、ある研究者は 10 年から 20 年後に、約 47%（アメリカ）が自動化されると予測している。日本は、49%が自動化されると予測され、アメリカより高い割合で自動化が加速する。だからこそ、今までは思いつかなかった様々な職業が生まれることになる。今あることが将来、どうなるか分からない。激しい社会的変化が子どもたちの生活の中にも及んでくる。そんな中で、自分で生活を切り拓いていく幸福な人生や社会をよりよくしていく、そういう子どもたちを育てていかななくてはならない。

特別活動においては、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の 3 つを大事なポイントとして、目標や内容を整理している。

特別活動の目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。【知識及び技能】

(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の（人間としての）生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という大事なキーワードが 3 つとも含まれるという点で、この三つ目の資質・能力の柱が、特別活動として一番大事にしたいものであるといえる。また、「自己の生き方についての考えを深め」は、道徳教育のねらいからきている。

各活動・学校行事の目標

【学級活動】

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

【児童会活動・生徒会活動】

異年齢の児童（生徒）同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

【クラブ活動】

異年齢の児童同士で協力し、共通の興味・関心を追求する集団活動の計画を立てて運営することに、自主的、実践的に取り組むことを通して、個性の伸長を図りながら第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

【学校行事】

全校または学年の児童（生徒）で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

各活動・学校行事がバラバラに子どもたちの力を育てるのではなく、特別活動として育成する資質・能力を目指して、関わり合って育てていく。基盤となるのは学級活動であるが、各活動で身に付けた力をそれぞれの活動で生かして、次につなげていくことが大事である。

主体的・対話的で深い学びの実現～アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善～

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けることができるようにする。アクティブ・ラーニングとは、活動がアクティブなだけでなく、子どもたちの思考がアクティブでなければならない。

特別活動における「深い学び」とは、基本的な学習過程を繰り返すことによって、子どもたちが学びを深めていくということである。事前から事後までの一連の学習過程をスパイラルに展開する中で、各教科での学びを生かし、子どもたちの学びを深めていく。特別活動と各教科は、各教科で育んだ力を特別活動で総合的、実践的に生かすものであり、特別活動で育んだ力を各教科で生かすという往還の関係にある。

キャリア教育の要としての役割を果たす

若年層の失業率は全年齢の平均と比べて高く、若年無業者は約57万人である。（平成28年度）進路意識や目的意識が希薄なままで進学する傾向が強い、職業を意識した時期が遅いなど社会全体を通じた構造的な問題が存在する。また、PISAの調査などでは、数学的リテラシーや科学的リテラシーなど日本の学力は高いという結果が出ているが、数学や理科を学ぶことが楽しいとか、将来の仕事に生かしたいなど、今学んでいることが将来の自分の職業に生きるという意識は低い。このようなことから、小学校からキャリア教育の充実を図ることが求められ、小学校特別活動においては、学級活動(3)が新たに設定され、キャリア教育の視点での小中高の系統性が明確にされた。

「キャリア形成」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための働きかけ、その連なりや積み重ねのことである。これからの学びや生き方を見通し、

これまでの活動を振り返るなどして自らのキャリア形成を図ることは、これからの社会を生き抜いていく上で重要な課題である。

学習活動や学校生活の基盤となる学級経営の充実

学級経営とは、学級目標を達成するために、様々な学習活動や学級生活において児童生徒一人一人が能力を発揮できるよう、指導の方向及び内容を人的、物的、文化的環境の面から整え運営することである。また、児童生徒が学び合い、助け合って生活しながら、「自立して生きていける力」を育てる学級担任の実践である。

学級活動における自発的、自治的な活動を中心に学級経営の充実を図ることによって学習活動や学校生活の基盤がしっかりとつくり、学びに向かう学習集団を形成することになる。学習指導要領実施状況調査の分析結果から明らかになったように、特別活動を通じたよりよい生活や人間関係づくりは学級経営の充実に資するものであり、学力と相関がある。

学級活動の内容

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」は、学級・学校生活をよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、協力して実践するものであり、自治的能力を育む。学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」は、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決のために意思決定して実践するものであり、自己指導能力を育む。学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」は、学級での話し合いを生かして将来の生き方を描くために意思決定して実践し、なりたい自分の実現につながる力を育むものである。

学級活動(1)、(2)、(3)の基本的な学習過程は同じである。問題の発見・確認→解決方法等の話し合い→解決方法の決定→決めたことの実践→振り返り→次の課題解決へというプロセスで構成される。大切なのは、実践することだけではなく、実践したことを振り返って次の課題解決に生かしていくことである。なお、学級活動(1)は集団でなければ解決できないことを扱い、集団として合意形成を図る。学級活動(2)、(3)は自分の課題を解決するために話し合いを生かして解決方法等を意思決定するという違いがある。

学級活動(1)の指導のポイント

目標のためにどんな実践が大切かを考えさせたい。提案理由を明確にし、何のために実践するのか、何のために話し合うのかを理解させる。必ず振り返りをさせ、次に生かさせることが大切である。次に、自分の考えを自分の言葉で出し合う、多様な考えを分類、整理し比べ合う、合意形成のためにまとめる段階の見通しをもって行えるように支援をすることも重要である。何をするか、どのようにするか、係分担はどうするかということが話し合いの大きな課題であり、子どもの発達の段階を踏まえて指導しなければならない。また、板書は子どもの思考を見える化して、構造化して分かりやすくまとめていく。話し合いの過程や状況が分かるように、賛成マークや反対マークを貼るなどの工夫をする。合意形成は安易な多数決を避け、様々な意見の良さを生かして皆が納得できるようにする。児童・生徒は意見を合体させすぎたり、意見全てを実行しようとしたりするので、教師が指導、助言の立場で声掛けを行う。終末の教師の話では、前回と比べてよかったことや次回に向けての課題、司会グループへのねぎらいなどを具体的に述べるのが大切である。

係活動とは、学級生活を円滑に運営するための当番活動とは異なり、学級生活の向上と発展のために子どもたちが創意工夫するものである。係活動の活性化のためには、競争によって意欲を高めるのではなく、協働によって意欲を喚起し合うようにする。

学級活動 (2) の指導のポイント

学級活動 (2) の展開例は「自分の課題としてつかむ。」、「原因を探る。」、「解決方法を見付ける。」、「自己の努力目標や実践方法を定める。」である。目指す児童の姿を明確化にして指導することが必要である。また、養護教諭や栄養教諭と連携を図った指導や家庭との連携、事後指導の充実も不可欠である。

学級活動 (3) の指導のポイント

学級活動 (3) の展開例は「課題を自分ごととしてつかむ。」、「自分のよさや可能性を探る。」、「なりたい自分に近づくための解決方法を見つける。」、「自己の努力目標や実践方法を定める。」などである。これまでの自分を振り返り、自分のよさや可能性、自分の成長に気付かせたい。子ども自身がなりたい自分についての願いをもち、自分に合った具体的なめあてや実践方法を意思決定できるようにしていくことが大切である。

最後に

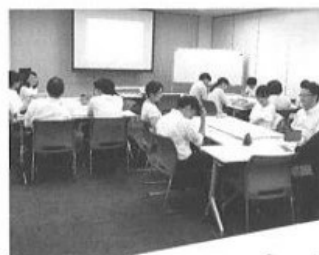
独立行政法人教職員支援機構校内研修シリーズ特別活動編として、YouTube で全ての指導要領の改訂のポイントを調査官が説明している。ぜひ時間があったら見てほしい。また、初等教育資料の5月号は学級経営の充実がテーマになっており、こちらも是非先生方に読んでいただき、特別活動の充実を通して、子どもたちが自らよりよい学級・学校生活をつくり、なりたい自分やよりよい自分を目指して前向きに頑張ることのできる力を育ててほしい。そして、楽しく豊かな学級・学校生活を子供たちとともにつくっていただけたらと思う。

※ 独立行政法人教職員支援機構校内研修シリーズ

https://www.youtube.com/channel/UCX8totUxdq5No6r9pw_4tiA

特別活動勉強会「特活プラス」について

愛教研特別活動委員会は月に1回程度、松山市教育研修センターを中心に特別活動の自主勉強会を行っています。特別活動や学級経営に興味のある先生方が集まり、日々の実践について困っていることやうまくいった実践などを、小グループで語り合っています。



回	日	場所	テーマ
第1回	6月22日	松山市	特活+学級づくり
第2回	7月25日	松山市	特活+キャリア教育
第3回	8月22日	松山市	特活+道徳
第4回	10月5日	松山市	特活+9年間の学び
第5回	10月26日	松山市	特活+学級活動(1)
第6回	11月30日	松山市	特活+体育科
第7回	12月28日	今治市	特活+児童会生徒会活動
第8回	1月18日	松山市	特活+社会科
第9回	2月22日	松山市	特活+総合的な学習の時間

年齢、校務関係なく誰でも参加できます。先生方、積極的に参加してみてはどうでしょうか。

第一分科会「とっかつはじめのいっぽ」

グループ討議

～みんなで「特活」の悩みを話そう、
語ろう、アイデアを出し合おう～

＜アドバイザー＞

元中予教育事務所長 高橋 猛先生
松山市立味酒小学校 小笠原陽二教頭先生

第1分科会では、参加者全員が特別活動をする上で悩んでいること、困っていることを少人数のグループに分かれて自由に話し合い、それに対するアイデアを出し合いました。

1 学級活動(1)について

- 話し合い活動をする時間がない。
 - ・45分間で決められるようにする。また、決められないことは、実践しない。2時間またぎにしない。そのために、計画委員会を綿密にすることが重要だ。
 - ・マニュアル(話型)にこだわると時間がかかることもある。マニュアルから離れていけるように、他教科の授業等での小集団で話し合いの経験をする 것도大切である。
 - ・低学年のころから、「話し合いは楽しい。」という経験を積むことで、話し合う喜びを感じさせたい。
- 意見を出す子どもが限られている。
 - ・KJ法などの思考ツールを小集団で活用することで、意見を出しやすくなるし、「時短」にもつながる。
- 意見をまとめるのが難しい。
 - ・司会力が重要になるので、司会グループを輪番制にするなど、司会の経験を積ませたい。
 - ・一つの話合いの例として…
多様な意見を出させる。→A案のいいところを出させる。→B案のいいところを出させる。→C案… →提案理由を抛り所にまとめさせていく

☆ 学級活動(1)での話し合いの仕方が、係活動、クラブ活動や委員会活動、代表委員会にも活用される。時間の確保は難しいが、取り組んでいきたい。

2 係活動について

- 活動が停滞してしまう。
 - ・時間を取ることが大切で、子どもに任せっぱなしではいけないと思う。

- ・係決めの際に、教師からどんな活動にしたいのかを伝える。例えば、係活動は「クラスのためになる」、「クラスが美しくなる」、「クラスが楽しくなる」活動をするのが係活動である、など。
- ・掲示板を作ったり発表会をしたりと、活動の発表の場を設けるといいのではないだろうか。

☆ 低学年では、学級の中での役割を果たす当番活動、中学年では学級をよりよくするための係活動、高学年では学校をよりよくするための委員会活動とつながっている。係活動を創意工夫させ、主体的な委員会活動へとつないでいきたい。

3 代表委員会について

- 活性化したい。
 - ・議題が、子どもたちの思いを反映しているものになっているか考えたい。例えば「運動会のスローガンを決めよう」ではなく、「盛り上がる運動会にするためにできることを考えよう」など、子どもの思いを入れたものにしていく必要がある。
 - ・児童会室があれば、年間の議題を掲示しておく、見通しがもててよい。
 - ・前年度の代表委員会で話し合った黒板を残しておいて、見ることができるようにしておくのもよい。先輩のアイデアより、さらにいいものを生み出そうとするかもしれない。

☆ 低学年からの話し合いや議題の見つけ方の指導の積み重ねが大切で、学校で統一した話し合いの仕方があることが望ましい。

4 特別活動主任について

- 新しい行事を企画したいが、できない。
 - ・新しいことをするとき、問題になるのは「時間」と「大人」だと思われる。子どもの思いを大切に、熱意をもって「大人」に伝えたい。

☆ 楽しい特別活動であるが、注意しなければならぬことも多い。例えば、「リレー大会をしよう。」となったときに、苦手意識をもっている子への配慮を忘れてはいけない。いじめにつながらないよう、教師の適切な配慮、見届け、指導をしていきたい。

第二分科会小学校 学級活動(1)

自信をもって意見を出し合い、合意形成ができる話し合い活動の工夫



～学級活動の充実を図る指導を通して～

愛南町立長月小学校
教諭 末武 浩

提案要旨

1 はじめに

本校は、極小規模校であり、児童は素直で明るく、全体的に落ち着いた雰囲気の中で学習や行事に取り組むことができている。しかし、少人数の上、人間関係が固定化されており、意見を活発に発言できる児童とそうでない児童の差が大きく、活発な話し合いになりにくい傾向が見られる。そこで、全員が自信をもって自分の意見を伝え合えるようになり、互いの立場や考えを尊重しながら合意形成する話し合いを行うことで、一人一人の児童の良さを生かしながら、みんなが納得する解決方法を見出すことができると考えた。

2 実践事例

(1) 学級の実態把握

第5学年(男子4名女子3名 計7名)の児童は、素直で明るく、全体的に落ち着いた雰囲気の中で学習や行事に取り組むことができている。

ア アンケートの結果より

43%の児童が、自分の意見に自信をもって言いにくいという結果となった。また29%の児童が、「自分の意見と違うことに決定して、不満に思ったことがある。」という経験をしていることが分かった。

イ 話し合いの基本的な指導

(ア) 推理トーク

ホワイトボードに描かれた絵を予想する活動を通して、質問する練習を行った。

(イ) しりとりトーク

制限時間を決めて、1分間、全員でしりとりをした。終わったら、みんなで最初の言葉から振り返るので、聞き取りの練習にもなった。また、言葉に詰まったときに助け合うことができるようになった。

(2) 話し合い活動での工夫

ア 自分の考えに自信をもって伝え合うための工夫

(ア) 主体的に話し合える議題

自分自身にとって必要だと思う議題なら主体的に参加しやすいと考え、議題箱を設置して議題を募集し、みんなで選んで決定した。

(イ) 学級会の進め方マニュアル

話し合いを進める司会者のためだけではなく、全員に配付して、全員に「出し合う」、「比べ合う」、「まとめる」という話し合いの流れを把握させた。

(ウ) 意見の準備

計画委員会で決まったことを事前に伝え、事前に自分の考えを、「学級会ノート」に記入しておくようにした。

イ 合意形成をして、自分もよく、他者もよい解決方法を見出すための工夫

話し合いのポイントを示し、板書に意見集約表を活用して、意見をまとめやすくした。

(3) 次の指導に生かす評価の工夫

自己評価を記入し、うまくいかなかったことを次に生かすよう声を掛け合った。

3 成果と課題

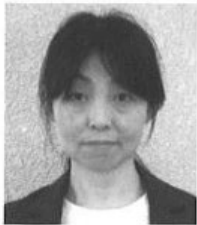
- 励ましたり認めたりしながら、発言する機会を増やした結果、自分の意見とその理由に自信をもって発言できる児童が増えた。
- 折り合いをつけて合意形成ができる話し合いをしてきた結果、互いに納得できる決定の仕方が身に付いてきた。
- 話し合いをしたことが、自分たちにとって、とても満足する結果につながることによって、「話し合いが好き。」という前向きな姿勢や、「みんなで決定したことを守ってやってみよう。」という実践意欲につながった。
- 国語科を中心に「話すこと」の技能をもっと向上させたい。
- これからも話し合い活動を継続して行い、児童の自発的、自治的な活動にしたい。

研究協議

- 人数が多ければ多いほど、合意形成の話し合いは難しくなる。一番大切なことは、常に提案理由に立ち返ることである。出てきた意見が離れてくると、教師が入って提案理由につなげ直すとスムーズに話し合いを進めることができた。また、条件設定もしっかりと立てておかないと、意見を絞ることができないので、事前に整えていく必要がある。

第二分科会中学校 学級活動(1)

認め合い、高め合える集団を作るための『話し合い活動』の充実



～各教科に話し合いを取り入れる取組を通して～

松前町立松前中学校
教諭 兵頭 しづか

提案要旨

1 はじめに

本校は、生徒数342名の中規模校である。平成23年度より継続している被災地の小中学校との交流や、学校行事、委員会活動などの諸活動においては、生徒会執行部を中心に、生徒が主体となって行っている。しかし、普段の生徒の様子を見ると、自分の言葉で発言したり積極的に話し合い活動に参加したりできる生徒は多くない。様々な活動の中で話し合い活動の場を設け、自分の言葉で自分の考えを述べ、練り合う機会を増やせば、認め合い高め合える集団をつくることができると考え、本主題を設定した。

2 実践事例

(1) 学級における話し合い活動の充実

ア 話し合い活動の資料収集と話し合いマニュアルの作成、実践

各クラス、各班分の「話し合い活動マニュアル」を準備し、誰でも司会進行ができるよう話し合いを重ねた。

イ 学級活動を始め、各教科や道徳の授業での話し合い活動の場の設定

ウ 全校統一テーマでの学級活動における話し合いの実践

「松中いじめ撲滅宣言」をつくった先輩たちの思いを基に、学校・学級生活をより良くするために自分たちにできる具体的な活動を全学級で話し合った。「月2回、学級全員で遊ぶ日を作ろう。」「学級全員で人権についての本を読む機会を作ろう。」など、各クラスで様々な内容が決定し、実践された。

エ 話し合い活動を取り入れた研究授業の実践
オ 学級生徒会のもち方の見直し

終わりの会を延長して行っていた話し合いを、1時間枠で行うようにした。生徒が委員会活動の振り返りや学級の課題、解決策等をしっかりと考える時間が確保できるようになり、生徒の取組が変化した。

カ 司会者育成のための計画委員会の実施
代表者を集めて計画委員会を実施した。進行を行う上で、起こりそうな場面や質問を想定し、話し合い練習を行った。

キ 板書計画の見直し(活動の可視化)

(2) 生徒会活動の活性化と連携

ア 生徒協議会の実施方法の見直し

イ 生徒集会での発表の場の設定

3 成果と課題

- 話し合いのためのマニュアルを作り、学級活動、各教科、道徳の授業で回数を重ねたことで、話し合いの技能が身に付き、生徒の話し合いに対する抵抗感が軽減した。また、多くの生徒が自分の意見をもって積極的に話し合いに参加できるようになった。
- 学級生徒会のもち方を見直したことで、話し合いの場が確実に設定された。そして、生徒自身が自分たちの現状を把握して課題を見付けたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、良かった点や改善点に気付いたりできるようになった。
- 諸行事や授業時数の確保との兼ね合いで、学級生徒会を継続していくことの困難さが課題として残る。また、今後、多くの経験の場を設け、大集団での司会ができる生徒を育成していくことが新たな目標となった。

研究協議

- 各クラスに話し合いマニュアルを配布し、司会団を輪番制にしたことで、生徒たちの話し合い活動に対する意欲が向上し、責任感も育っている。話し方・聞き方等の基本的な技能については、小学校段階からの指導が行き届いているため、困難さはない。また、各学級で普段から学習訓練をしていること、話し合いの目標を明確に立てていることが、良い結果として表れている。
- 取組を2年間継続した3年生をはじめ、生徒の話し合い活動に対する意識は確実に高まっている。評価として見取る具体的な方法としては研究を重ねる必要があるが、「話し合いは安心して子どもたちに任せられる。」という教員からの声も上がり、成果を感じることができた。
- 話すことに関して意欲がある子どもたちが多く感心した。その中でも、「テーマに関する質問を考える。」ことや「質問に対する答えを考える。」ことの経験を一人一人が積み重ねていくことで練り合いが深まる集団へと育っていくと感じた。

第三分科会小学校 学級活動(2)

主体的に自己実現を目指す児童の育成



～第6学年特別活動を中心としたキャリア教育を通して～

新居浜市立高津小学校
教諭 日野 智徳

提案要旨

1 はじめに

本校は明治23年に設立され、今年度で129年目を迎える。卒業生にパソコンソフト「一太郎」、「花子」、「ジャストスマイル」で知られるジャストシステムを創業した浮川和宣氏がいる。また、本校のゆるキャラ「たかトラ」は昨年、愛媛新聞・ジュニアえひめ新聞で紹介された。教育目標「豊かな心を持ち、たくましく生きる児童を育てる」のもと、第6学年では主体的に自己実現を目指す児童の育成を目指して、特別活動を中心としたキャリア教育を推進している。

2 実践事例

(1) 年間指導計画の作成

児童の成長過程に沿って「誕生・命」、「小学校6年生の今」、「中学校に向けて」、「将来に向けて」の4つの視点に立って作成した。

(2) 児童の実態把握(9月)

自分が将来したい仕事や、将来に向けて努力しているか等のアンケートを実施した。

(3) 学習活動

ア 誕生・命

他教科とも関連させつつ、道徳科「お母さんへの手紙」や学級活動「誕生学」を実施し、かけがえのない命を大切に、自分の夢に向かって、一生懸命に生きる気持ちを高めた。

イ 小学校6年生の今

朝の会の1分間スピーチの時間を活用して、自分の将来の夢について発表した。また、学級活動では、友達の良さを見付けたり、係活動と将来の仕事との関連を考えたり、NTTの協力でスマートフォン・携帯電話の安全な使用の仕方について学んだり、カナダから来た友達との交流で将来の夢についてインタビュー活動を行ったりした。

また、栄養教諭とT・Tで食育やマナー給食を行い、食事を通して命の大切さを確

認し、社会人になった時のマナーの習得を図った。さらに、他教科との関連として、外国語活動では英語で将来の夢を伝え合い、国語科では1年間のまとめとして将来の自分の夢や就きたい職業について、学級で発表し合った。

ウ 中学校に向けて

中学校教員による英語科の授業や、中学生との交流、部活動見学を実施した。

エ 将来に向けて

「ジュニアえひめ新聞」を活用したり、ゲストティーチャーによるより良い生き方に関する話を聞いたり、自らのキャリアアンカーを探したり、「人生設計図」を作成したり、校区の先人・小野寅吉についての調べ学習を行ったりした。また、総合的な学習の時間や社会科で、キャリア新聞を作成したり、日本国憲法や税金について学習したりして、他教科との関連を図った。

(4) 児童の実態把握(3月)

9月と同じ項目でアンケートを実施した結果、前回よりも自分の将来について前向きに考えることができる児童が増加した。

3 成果と課題

- 特別活動を中心としたキャリア教育について、今後、対象学年を広げるとともに、中学校と連携しながらキャリア教育の系統化を図り、長い見通しをもった学習体系を構築する必要がある。
- キャリア教育に関する人材バンクをつくり、働く人や人生の先輩に直接会って生の声を聞きながら学習することができるように、地域を中心に人材を確保し、よりよいキャリア教育を推進していきたい。

研究協議

- 小学校で行っている実践を中学校でも発展させていきたい。特に「誕生学」は興味深かったもので、自校でも実施したい。
- キャリア教育については、他教科との関連が複雑なので、他教科と関連した年間指導計画の作成が大切である。
- 個人の自己実現と学級や子どもたちの集団づくりが両輪となって機能した時に、初めて特別活動を要としたキャリア教育が実践される。

第三分科会中学校 学級活動(2)

目標に向け、互いに支え合う集団づくり



～3年時の進路指導を通して～

今治市立桜井中学校
教諭 馬越 悠

提案要旨

1 はじめに

昨今、人間関係をうまく築くことができない生徒が増えている。また、将来の目標が明確でなく、高校進学後に進路を決定したり、漠然と進学先の学科を選んだりする生徒が多いように感じる。そのため、まずは自分自身について真剣に考え、現在だけでなく、将来を見据えた展望がもてるような投げ掛けや指導を行った。さらに、生徒同士が互いに支え合う中で、自己肯定感が高まり、前向きで明るい将来を切り拓いていく力の育成につながるのではないかと考え、本実践を行った。

2 実践事例

(1) コミュニケーション能力を育てるために

ア グループエンカウンターを活用

(ア) 「アドジャン」の実践

・学級開きのアイスブレイキング

(イ) 「そうですね」の実践

・相手に対し受容的な雰囲気づくり

(ウ) 「おにぎり焼きそばゲーム」の実践

・席替え後の交流

イ 五色百人一首

ウ 一筆書き選手権

5～6人の班で対抗戦を行い、上手いかわなくても「笑い」が起こった。相手の気持ちを推測しながら温かい雰囲気になった。

(2) 望ましい人間関係づくりを目指して

ア 「自分」を知る

教師自身の失敗談や自分の進路の話をしたり、学級通信で教師の思いや情報交換したりした。誕生日インタビュー・詩の紹介等も行った。

イ 「月での遭難」の授業実践

個人で考えをもたせた後、班で話し合った。達成感を味わい、想像力・判断力を培った。

ウ 「アンマー」の授業実践

かりゆし58の歌から家族について学んだ。

エ 入試カレンダー

一人1枚担当し、結束力を高めた。合格

者が卒業カレンダーを作成していった。

(3) 自分の進路を切り拓くために

ア 進路相談

学期に一度の個人懇談を行っている。面接練習を実施することで自信を付けさせた。

イ 3年生を送る会に向けて

思い出ビデオを作成(100時間を編集)した。

ウ 入試前・卒業式当日の授業実践

・過去問を分析し熱血指導を行った。

・最後の饞…教師の実体験「命」の大切さを伝えた。

3 成果と課題

○ これらの取組を通して、生徒たちがお互いを思いやり、支え合いながら、自分自身と真剣に向き合い、自らの進路を切り拓くために力を尽くすことができたように思う。

○ 生徒自身がやる気になり、目標となる進路を見出したとしても、親に反対されたり、経済的な事情に翻弄されたりして諦めざるを得ないケースがある。

○ 自分の夢を追い求めていることは素晴らしいことであるが、歌手やプロ野球選手など、個人のキャパシティを超えた目標に関して、どの程度まで後押しし続けることができるかを難しく感じる。

○ 不登校や非行等の諸事情で、進学先が決まらない生徒への関わり方についてなど、進路にゴールはないが、常に前向きに粘り強く関わっていく必要がある。

研究協議

○ 教師は、キャリア教育を通じて児童・生徒にどうなってほしいと考えているのか。就きたいと思える職業が無いのも当然。現実を踏まえながら最終ゴールはどうあってほしいのか。

○ その年代において、自分を否定することなく、小さな夢や目標を常にもっていてほしい。キャリア教育を凝縮していけば、「誰かの役に立ちたい」と思えること、自己実現と言いながら他者性の実感をもてることが大事であろう。

○ 3年時の進路指導も大事だが、進路実現は学校の中だけでは難しい。職場体験とは別に、企業見学や農業見学等の外部機関と連携した取組を開拓していく必要がある。

○ 将来のことは大事だが、現在のことが抜け落ちないように注意しなければならない。

第四分科会 児童会・生徒会活動

・クラブ活動・学校行事

主体的に関わり合うことのできる

児童の育成



～子どもの思いを「つなぐ」
活動を通して～

久万高原町立久万小学校
教諭 高市 佳児

提案要旨

1 はじめに

本校は、山間部に位置する小学校である。全校児童 161 名の小規模校で、児童の思いを生かし、児童同士のつながりを深める活動の充実を目指している。

昨年度までは、児童同士のつながりを深める特別活動が運動会と清掃活動と少なかったため、今年度は「つなぐ」をキーワードに取組を進めている。児童たちの思いを代表委員会で出し合い、それをクラブ活動や委員会活動、色別班活動などで実現しようと児童主体で取り組んでいる。

人との関わり合いを楽しみ、主体的に関わり合える児童を育てていきたいと考え、本研究主題を設定した。

2 実践事例

(1) 児童の思いを中心とした活動

ア 異年齢集団をつなぐ

- ・色別班の 6 年生が中心となった交流遊びと交流給食
- ・色別グループ名の考案とグループキャラクター作り
- ・新たな集会活動の企画（七夕まつり）
- ・色別班対抗ミニオリンピック

イ 全校の心をつなぐ

- ・久万小キャラクター作り
- ・運動会スローガン作り

ウ 感謝の心をつなぐ

- ・ありがとうの輪活動
クラスや色別班等でありがとうの言葉を届け合う活動を行った。

エ 心と体をつなぐ

- ・久万小体操
児童考案のオリジナル体操を作り、2 学期の運動会で披露する。
- ・アスリートクラブ
体育委員会が主催し、異年齢活動を行

オ その他の活動

- ・図書委員会による読み聞かせ
- ・環境福祉委員会による空き缶集め大会

(2) その他の活動について

ア 上浮穴高校とつながる交流学习

- ・学年ごとのテーマ別交流学习
1 年生はトマト植え、2 年生はサツマイモ植えなど、全学年が交流学习を行っている。

イ 幼稚園・保育園・地域と連携した運動会

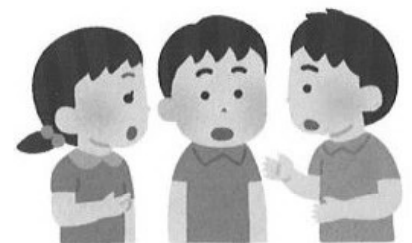
- 運動会に参加してくれた様々な人が互いに協力し合える種目も考えていきたい。

3 成果と課題

- 児童の意見を基に活動を進めているので、多くの児童が意欲的に参加し、楽しんでいる。
- 一つ一つの活動を楽しんでいる参加児童の様子から、企画運営した児童も達成感や充実感を味わうとともに、次の活動への意欲が高まっている。
- 活動を通して異学年との交流が広がっており、普段の休み時間にも異学年の友達と遊ぶ姿が見られるようになった。
- 今年度始まった活動が多いため、今後も継続して活動を進められるように工夫していくことが必要である。
- 現在交流のある幼稚園や高校との活動の充実を図るとともに、中学校や地域とのつながりも広げられるような活動を検討していきたい。

研究協議

- 児童の思いを集約して、それを活動につなげている点が素晴らしい。
- 小学校だけでなく、地域や高等学校との交流もできており、児童は多様な体験を通して、多くのことを学んでいる。
- 学校のキャラクターを考案するのはよいが、作成後どのように活用していくかを考える必要がある。



第四分科会 児童会・生徒会活動

・クラブ活動・学校行事

集団意識を培い、主体的に活動できる
生徒の育成



～気仙沼市立大谷中学校との
交流を中心として～

伊方町立三崎中学校
教諭 中島 慎二郎

提案要旨

1 はじめに

本校は、日本一細長い自然豊かな佐田岬半島に位置する四国最西端の中学校である。全校生徒30名の極小規模校で、ボランティア活動の充実を目指して、生徒会活動を行っている。

平成23年3月の東日本大震災直後、本校から様々な支援物資と応援メッセージを送ったことから、大谷中学校との交流が始まった。初めは支援という意味が強かったが、今では地域の特産物やメッセージを交換し合いながら交流を深めている。生徒たちが、遠い友達を思い浮かべながら、一丸となって活動することで、本校の生徒間はもちろん、大谷中学校との絆も深めることができる。そんな人とのつながりを大切に、主体的に活動できる生徒会活動を目指していきたいと考え、本研究主題を設定した。

2 実践事例

(1) 宮城県気仙沼市立大谷中学校との交流

ア おりづるの旅プロジェクト

平成21年7月に2年生が行った平和学習を通して、戦争と平和を考える、このプロジェクトが始まった。

イ 千羽鶴プロジェクト

おりづるの旅プロジェクトは少しずつ内容を変え、現在は「千羽鶴プロジェクト」を行っている。全校生徒だけではなく、三崎小学校、地域の方の協力も得ながら千羽鶴を作成し、原爆の子の像に捧げた。

ウ さつまいもプロジェクト

地域の方の協力を得て、自分たちで育てたサツマイモを大谷中学校に送った。そのお礼として、大谷中学校から「大谷っ子米」が届いた。東日本大震災直後はほんの少しのお米だったが、その量が年々増えていくことで、復興を実感し、生徒たちも喜びを感じている。

エ オレンジプロジェクト

私たちのふるさとが誇る柑橘を大谷中学校のみなさんにぜひ食べてもらいたいと、

各家庭や地域の方の協力のもと、このプロジェクトが始まった。

オ 合唱曲「きみの笑顔に会いたくて」

「おりづるの旅プロジェクト」の取組を知った地元出身のフォーク歌手サスケさんが作詞・作曲した歌である。この歌は、人と人との絆をテーマにした、本校のソウルソングとなっている。

(2) その他の活動について

ア 小中の連携

隣接する三崎小学校と合同で、海浜清掃を行った。また、毎年、小中合同運動会を行っており、小学生を思いやる心や主体的に動こうとする態度を育成している。

イ 地域との連携

12月、地域の老人クラブの方とのクロッケーやグランドゴルフを通して、交流を深めている。

3 成果と課題

- 各プロジェクトでは、スタッフを中心に活動内容や役割分担等を考え、全校が関わる活動を行うことができた。また、この活動を通して全校生徒の集団意識が高まった。
- 大谷中学校との交流を通して、生徒の計画性や主体的に考える力が育った。
- 生徒の負担が多くなり、活動を精選する必要がある。
- 柑橘類は、年によって収穫量の増減がある。多くの農家の方々に協力していただいているが、地域の現状を考慮しながら、生徒と話し合って進めていく必要がある。

研究協議

- それぞれのプロジェクトを経験することで、生徒たちに主体性や思いやりの心が育っている。ぜひ継続して行ってほしい。
- ボランティア精神は、体験することで育っていく。自分たちに何かできることはないか、困っている人の役に立ちたいと考える生徒が育っている。長い目で見ながら、これらのプロジェクトを精選し、継続させて行ってほしい。



県内各支部の研究実践紹介

東 予

「つながりと感動」生徒の主体的な、

互いを認め合う集団づくりの実践事例

—四国中央市立土居中学校—

1 はじめに

本校は、四国中央市の西部に位置し、五つの小学校区からなる生徒数 358 名の中規模校である。教育目標である「自立 つながりあって輝く生徒」の下、つながりの中で生き生きと輝く生徒を育成し、将来の担い手となれる人間づくりに取り組んでいる。生徒の主体性の育成や、互いを認め合う望ましい集団づくりを目指し、生徒会本部を中心に様々な活動を行っている。

2 実践事例

<p>【毎月実施】</p> <ul style="list-style-type: none">① 常任委員会報告② 挨拶運動	<ul style="list-style-type: none">① 生徒朝会を開き、各常任委員長が「委員会目標や取組」を全校生徒に伝える。「みんなに守ってほしい」内容についても触れ、意識を高めている。② 毎月3日間、生徒玄関にて生徒会本部を中心に行っている。各委員会とも協力し、たくさんの生徒とのつながりを大切にしている。 
<p>【每学期実施】</p> <p>Study クラスマッチ</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 国語・数学・英語における基礎的な問題を出題する。各学級で学び合う活動を通して、合計点を競う。
<p>【4月実施】</p> <p>対面式、部活動紹介</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 新入生に向けて、主な行事など学校紹介をする。また、アンケートを実施し、学校生活への不安など先輩が答える。部活動紹介では、各部で工夫し取組を紹介する。
<p>【11月実施】</p> <p>人権劇</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 人権委員、生徒会本部を中心に、いじめや差別解消に向けた劇をする。生徒の一人一人の思いを伝え、全校生徒だけでなく保護者、地域への発信をしている。
<p>【3月実施】</p> <p>3年生を送る会</p>	 <p>3年生を送る会</p> <ul style="list-style-type: none">○ 中学校3年間の「思い出スライドショー」や、1・2年生、教職員が協力し「ダンスリレー」などを行う。毎年、笑いあり涙ありの展開で、3年生たちへの感謝の気持ちを伝えている。 <p>↑文化祭、キャラ募集にて決まった土居中学校マスコットキャラクター「ドゥアイ」</p>

3 成果と課題

どの活動にも、生徒は意欲的に取り組んでいるように感じる。生徒が主体的に行動し、他を思いやり、互いに認め合う集団づくりができつつある。今後も、そのきっかけとなるような取組を企画し、生徒のエネルギーを存分に発揮できる環境づくりをしていきたい。これらの活動を続けていくためには、学校全体での更なる話し合いが必要である。

1 はじめに

「目指せ夢クロ！」

岡田小学校の校訓である、「力いっぱい」。子どもたちは、勉強に、運動に毎日力いっぱい取り組んでいる。代表委員会での話し合いを通して、より良い解決を目指す自治的な力を育てたり、学年の枠にとらわれず温かい関係を築いたりできている。そんな中、「みんなが理想とする岡田小学校を自分たちで作っていきたい。」「それを岡田小学校のオリジナルキャラクターにしたい。」という声があがってきた。「みきゃん」や「バリーさん」に負けないイメージキャラクターがいたら・・・子どもたちのそんな思いを実現するプロジェクトとして岡田っ子夢のクローバー隊（通称、夢クロ）が生まれた。

2 夢のクローバー隊員



人の役に立つことに、何でもチャレンジして取り組む。

「やるキッド」



一生懸命掃除ができ、植物を大切にする。

「ひまっくりん」



たくさん遊んで、みんなが仲良くなる。

「はっちゃん・みっちゃん」



気持ちのよい挨拶ができ、笑顔の素敵な岡田っ子。

あいさつ
「愛札くん」



みんなの安全を守るよ。
あ・・・あいをあけない。
か・・・かけない。
お・・・おくれない。
に・・・二列にならない。

「あかおにくん」



3 終わりに

職員室の前にある掲示板には、月替わりで各学年の夢クロが紹介されていたり、集会や運動会などの行事では夢クロ達が登場し、岡田っ子の活躍を見守ったりしている。この五組のキャラクターが、様々な場面で今の岡田小学校の子どもたちの力になり、そしてこれからも子ども達の心を支える存在になることを願っている



1 はじめに

本校は、豊かな自然に囲まれた内子町小田にある全校生徒 35 名の小規模校である。平成 26 年度に小田地区の三つの小学校が統合し、新小田小学校となった。それに伴い、中学校も小学校校舎に併設する形で新築移転され、小中連携を生かした集団づくりや生徒会活動に取り組んでいる。

2 実践事例

(1) ハイタッチ挨拶運動

毎朝、生徒玄関にて、生徒会役員と生徒 3 名（当番制）であいさつ運動を行っている。中学生だけでなく、小学生ともハイタッチをしながら「おはよう。」の声が飛び交うなど、笑顔で一日の学校生活がスタートできるよう取り組んでいる。



(2) 小・中英語交流会

小学 5 年生から中学 3 年生までを縦割り班に編成し、英語でのゲーム活動を行ったり、日常で使う簡単な英会話を口頭練習したりして、年に数回、交流会を行った。



(3) みかんツリー制作

小学 3 年生から中学 3 年生の縦割り班で、温州みかんの皮を使ったクリスマスツリー・オーナメント作りをしている。中学生が率先して小学生をサポートし、会話を楽しみながら活動している。学校で点灯後は、道の駅にも展示するなど、地域の方にも楽しんでもらっている。

3 成果と課題

小中が併設されている強みを生かし、交流する機会を増やすことで、全校児童・生徒の相互理解が深まり、お互いの良さを認め合うことにつながっている。また、後輩を積極的にサポートする経験を通して、思いやりの心やリーダーの育成に効果的である。しかし、計画する際に、教師主導となることが多いため、生徒自らが企画や準備するなど、主体性を伸ばすための工夫が必要である。



愛媛県特別活動夏季研究会 栄光の足跡

回	開催年	会場	テーマ
1	1967年	S42 八幡浜市	
2	1968年	S43 道後中学校	小：自主創造性を伸ばすための特活における教師の役割はどのようにすればよいか 中：特活と学校行事等の計画や実施の関連をどのようにすればよいか
3	1969年	S44	小：自発的・自治的な集団活動をすすめるなかで、ひとりひとりを生かす指導はどのようにすればよいか 中：学芸的行事の計画や実施に当たって、特別活動を通じて生徒に自主的積極的に参加させるための指導法
4	1970年	S45 湯築小学校	移行期における児童活動（生徒活動）。学校行事をすすめるなかで、ひとりひとりを生かす指導はどうあればよいか
5	1971年	S46 東雲小学校	特別活動における（移行期における特別活動において）望ましい集団活動の成立とひとりひとりを生かす指導はどうあればよいか
6～7	1972年～1973年	S47～S48 東雲小学校 新玉小学校	小：特別活動における望ましい集団活動の成立とひとりひとりを生かす指導は、どのようにすればよいか 中：特別活動において、望ましい集団活動の成立とひとりひとりを生かす指導は、どのようにすればよいか
8	1974年	S49	
9	1975年	S50 城東中学校	特別活動における望ましい集団活動の成立とひとり一人を生かす指導はどのようにすればよいか
10	1976年	S51 城東中学校	特別活動における望ましい集団活動の成立とひとり一人を生かす指導はどのようにすればよいか
11～12	1977年～1978年	S52～S53	調和と連携の上に立つ望ましい集団活動の成立と、一人一人を生かす指導はどうすればよいか
	1979年	S54	※ 全国集団学習研究松山大会
13	1980年	S55 江戸岡小学校	児童・生徒の自発的・自治的な活動を高める指導をどのようにすればよいか
14～24	1981年～1991年	S56～H2 清水小学校 今治市 日吉小学校 岡田小学校 大洲小学校 文教会館 今治市 中央公民館 江戸岡小学校	一人一人の児童・生徒に充実した学校生活を体験させるための特別活動の研究と実践
	1980年	H4	※ 小学校学校行事研究全国大会愛媛大会
25～26	1993年～1994年	H5～H6 文教会館 今治市 中央公民館	一人一人の児童・生徒に充実した学校生活を体験させるための特別活動の研究と実践
27～30	1995年～1998年	H7～H10 松前総合文化センター 吉田町 中央公民館 文教会館 県厚生年金休暇センター	小：一人一人の児童が、充実した学校生活を体験するための特別活動の充実 中：一人一人の生徒が、充実した学校生活を体験し、自己実現を図るための特別活動の研究
31	1999年	H11 今治市立常盤小学校 今治市立日吉中学校	※ 四国大会
32～35	2000年～2003年	H12～H15 宇和島市総合福祉センター 松山市 総合センター 今治市 総合福祉センター 子規記念博物館	「共生」と「創造」を目指す特別活動の研究 ～子どもたちの人、自然、文化、社会とのよりよいつながりの体験を通して～
36	2004年	H16 宇和文化会館	「共生」と「創造」を目指す特別活動の研究 ～子どもたちの人、自然、文化、社会がよりよいつながる体験を通して～
37	2005年	H17 重信中央公民館	「共生」と「創造」を目指す特別活動の研究 ～子どもたちが人とよりよく「つながる」体験を通して～
38～40	2006年～2008年	H18～H20 南吉井小学校 川内中学校 西条市 中央公民館 文教会館	「共生」と「創造」を目指す特別活動の研究 ～子どもたちが人とよりよく「つながる」体験を求めて～
41～44	2009年～2012年	H21～H24 宇和島市総合福祉センター 県女性総合センター 今治総合福祉センター 松前総合文化センター	「絆」を大切にする特別活動の研究
45	2013年	H25 宇和島市総合福祉センター	絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造
46～49	2014年～2017年	H26～H29 桑原小学校 桑原中学校 今治市 波方公民館 東温市 中央公民館 愛南町御荘文化センター	絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造 ～よりよい生活や人間関係を築く集団活動の実践を通して～ ※ 四国大会（桑原小学校）、全国大会（桑原中学校）
50	2018年	H30 松前総合文化センター	絆を深め、たくましく生きる力を育む特別活動の創造

1 特別講演について

- 具体的な実践例がたくさん盛り込まれた講演で2時間があつという間に過ぎた。「学校が楽しい！」場所になるためには特別活動が基盤になるということがよく分かった。
- 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点に基づき、各活動を通して育成すべき資質・能力を明確化し、教職員がそれを認識して指導しなければならないことの重要性が分かった。
- 新学習指導要領の内容をより具体的に教えていただき、読んで分からなかった部分がストンと入ってきた。これから、特別活動を盛り上げていきたい。

2 分科会について

(1) 第一分科会

- ざっくばらんに話し合え、特別活動のことを一から学ぶとてもよい機会となった。
- 先生方と語り合う中で、勉強になった。素朴なことも聞きやすくてよかった。特別活動初心者としてありがたい場だった。
- 他の学校の先生方といろいろお話ができて参考になった。2学期以降のヒントを得ることができた。

(2) 第二分科会

- 他校の様子や取組がよく分かった。話し合い活動で悩んでいることが他校も同様であることに安心し、意見や助言を聞いて力をもらった。2学期は生徒会活動が多くあるが、生徒とたくさん関わって活動していきたい。
- 話し合い活動マニュアルや司会者育成のための計画委員会、短冊を用いた板書計画など参考になるものがたくさんあり、勉強になった。

(3) 第三分科会

- キャリア教育について、今まで知らないことが多かったが、いろいろなことを勉強することができた。小中や家庭、地域との連携や、学級を小さな社会と捉えること等、幅広い視野から特活について考えることができた。
- 小学校での学級活動(3)を中心とした取組が、中学校での進路指導につながり、これからの子どもたちの力になると思った。先生方の熱い思いが伝わってきた。

(4) 第四分科会

- 他校の取組を知ることができて、とても参考になった。系統性を意識した小学校からの実践と、自主的・自発的な活動が広がるような仕掛けを工夫していきたい。
- 学校の実態に応じた取組を聞くことができ、とても充実したものになった。特色ある学校づくりを推進するためにも特別活動の重要性を感じた。

3 その他運営面や全体的なことについて（日頃の悩み等も含）

- 学級での話し合いの前段階として小集団での話し合いがあるが、そこで活発に意見が出るように、どのような工夫をされているか等も詳しく知りたかった。
- 特別活動は重要であり、その母体は学級であると改めて感じた。分科会での発表を通して、今後自分にできることをしっかりやっていきたい。

編集後記

2018年は、「平成最悪の豪雨災害」と言われる西日本豪雨災害が起きました。県内各地でも今だ大きな爪痕を残しています。これからも起きるかもしれない自然災害に対して、何よりも大切な命を守るため、私たちにできることは何でしょう。特活ができることは何でしょう。そんなことを考えた1年でした。一人残らずみんなが幸せになれるよう、まずは「楽しい学校・学級づくり」を頑張っていきましょう！

愛教研 Web ページに愛媛特活の取組を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

http://aikyoken.just-size.net/cms/html/modules/pico30/index.php?content_id=1

※ 2019年度の夏季研究会は、8月2日（金）に東予地区（西条市総合文化会館）で開催予定です。多数のご参加をお待ちしております。